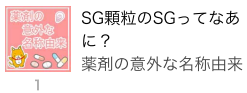


トップ > ニュース > 医療一般 >

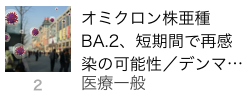


人気記事ランキング

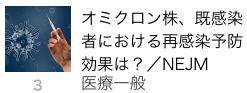
週間 月間



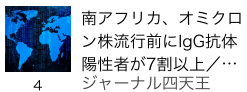
1



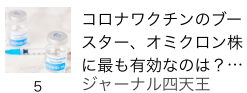
2



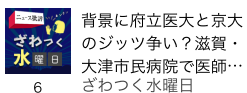
3



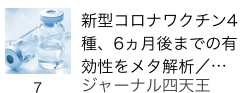
4



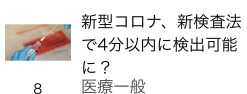
5



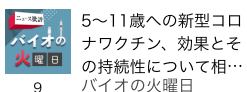
6



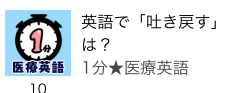
7



8



9



10

医師閲覧ランキング



ベンゾジアゼピンの使用と濫用～米国調査

提供元：ケアネット



ツイート

いいね! 1

公開日：2019/01/18

ベンゾジアゼピンの使用率、不適正使用の特徴および年齢による変化について、米国・ミシガン大学のDonovan T. Maust氏らが、調査を行った。Psychiatric Services誌オンライン版2018年12月7日号の報告。



2015、16年のNSDUH (National Survey on Drug Use and Health) のデータより、18歳以上の成人8万6,186例およびベンゾジアゼピン使用が報告された1万290例を対象に、横断的分析を行った。過去1年間のベンゾジアゼピン使用と不適正使用（医師が指示しなかった方法）、物質使用障害、精神疾患、人口統計学的特徴を測定した。不適正使用は、若年（18～49歳）と高齢（50歳以上）において比較を行った。

主な結果は以下のとおり。

- ・前年にベンゾジアゼピン使用を報告した患者は3,060万人（12.6%）であり、そのうち処方された患者が2,530万人（10.4%）、不適正使用患者が530万人（2.2%）であった。
- ・濫用は、全体的な使用の17.2%を占めていた。
- ・ベンゾジアゼピンを処方された患者は、50～64歳で最も多かった（12.9%）。
- ・濫用は、18～25歳で最も多く（5.2%）、65歳以上で最も少なかった（0.6%）。
- ・処方されたオピオイドまたは覚せい剤の濫用や依存は、ベンゾジアゼピンの濫用と強い関連が認められた。
- ・ベンゾジアゼピン濫用の最も一般的なタイプは、処方箋なしであった。また、最も一般的な入手先は、友人や親戚であった。
- ・50歳以上では、それ以下と比較し、処方された以上のベンゾジアゼピンを使用する傾向があり、睡眠補助のために使用されていた。

著者らは「米国におけるベンゾジアゼピン使用は、以前に報告されていたよりも高く、濫用が全体の使用の約20%を占めていた。50～64歳のベンゾジアゼピン使用は、65歳以上を上回っていた。覚せい剤またはオピオイドを処方した患者では、ベンゾジアゼピン濫用を監視する必要がある。睡眠や不安に対する行動的介入へのアクセスが改善されることで、濫用を減少させることができる」としている。

■関連記事

ベンゾジアゼピン系薬の中止戦略、ベストな方法はベンゾジアゼピン依存に対するラメルテオンの影響
ベンゾジアゼピン使用と認知症リスク

(鷹野 敦夫)

■原著論文はこちら

[Maust DT, et al. Psychiatr Serv. 2018 Dec 17. \[Epub ahead of print\].](#)

掲載内容はケアネットの見解を述べるものではありません。（すべての写真・図表等の無断転載を禁じます。）

■関連記事



ベンゾジアゼピン使用と認知症リスクとの関連性が示唆された

医療一般 (2018/11/20)

